

# リュツォ・ホルム湾の定着氷の状況

国立極地研究所・南極観測センター

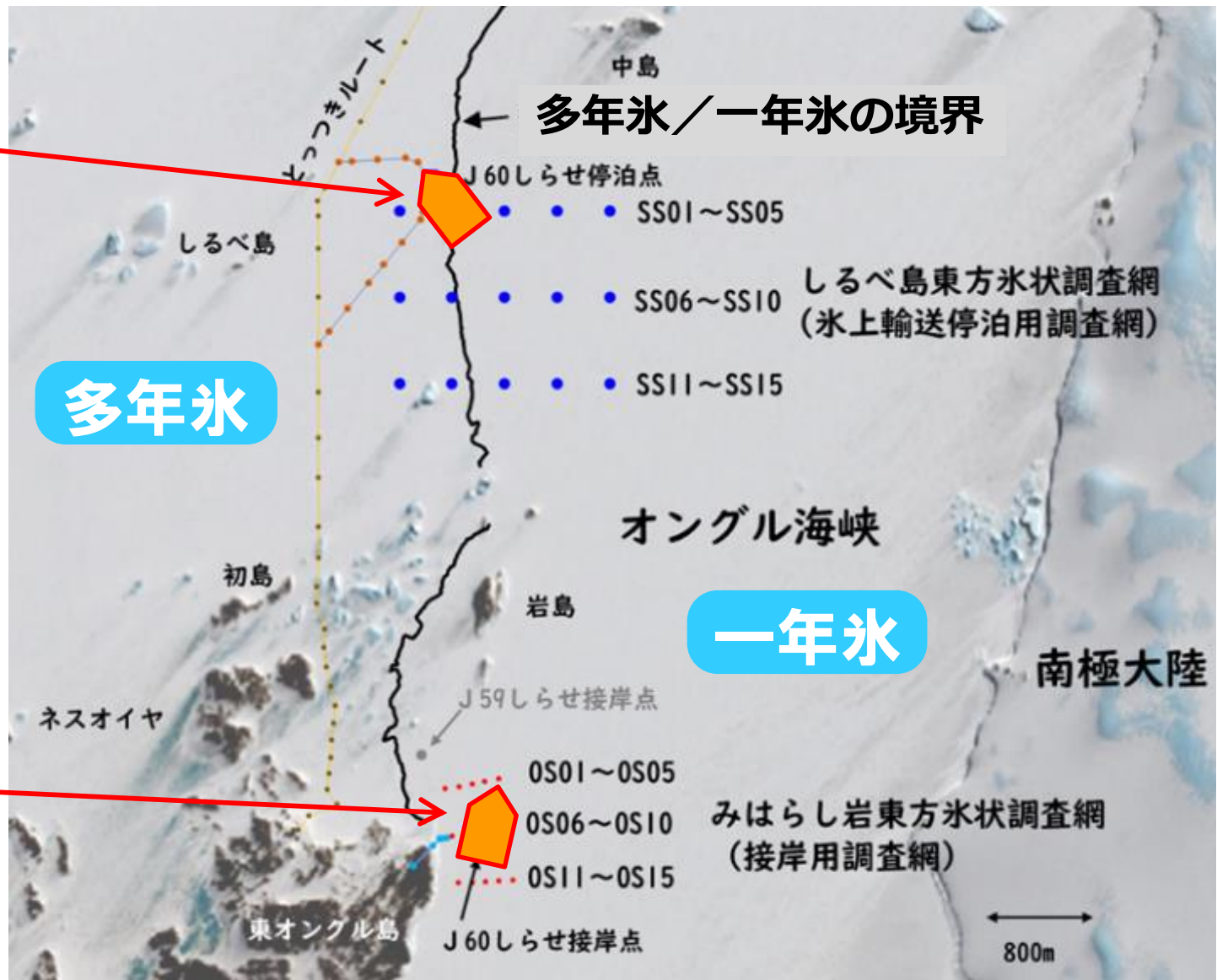
第60次越冬隊および国立極地研究所は、越冬期間中の野外活動や第61次隊の輸送作業ほか夏期行動計画の参考とするため、衛星画像や昭和基地における目視、気象・潮汐観測データにもとづいて海氷状況を監視している。

## 2018年12月以降の変化の特徴

- 12月下旬～1月、基地定着氷・積雪の融解進行箇所を避けて氷上作業。
- 2月上旬、ブリザードによって湾沖の流氷域で**乱氷帯**が形成された。
- 4月上旬、湾内定着氷域に、広い範囲で**割れ込み**が見られた。
- 4月下旬、割れ込みが進行し、5月に入って**弁天島付近まで**達した。
- 5月20日時点で凍結していない模様。

# 60次しらせ停泊点周辺の氷状

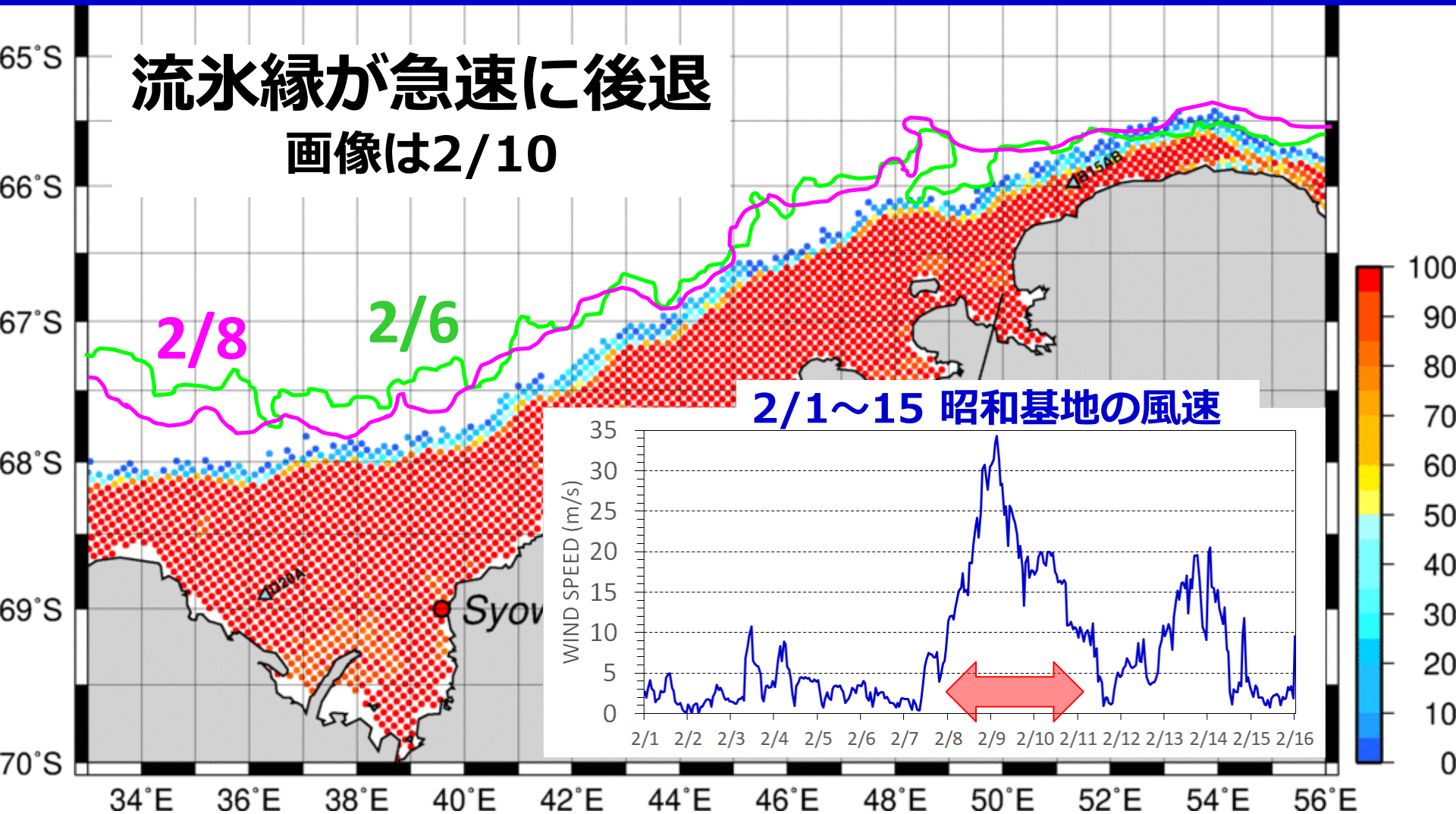
12/28  
停泊点



12/25  
接岸

図中の赤・青：接岸および氷上輸送のための停泊点用調査網  
(59次越冬隊活動報告から引用)

# 60次しらせ復路における乱氷帯の形成



流氷縁が急速に後退  
画像は2/10

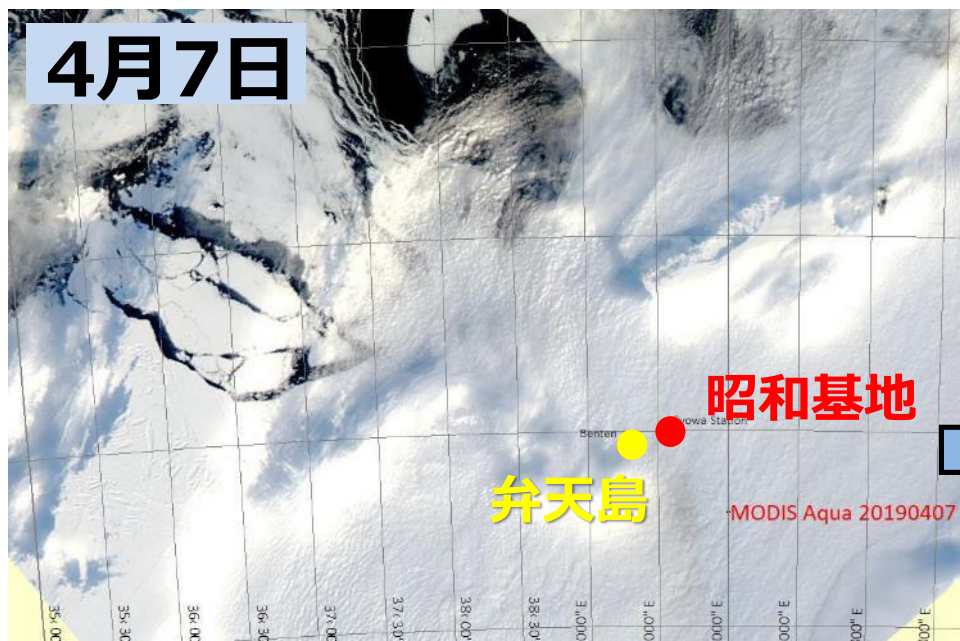
2/1~15 昭和基地の風速

ブリザード (2/8~10) によって流氷域が南方へ圧縮、  
氷盤が重なり合って積雪も加わり、乱氷帯が形成された。

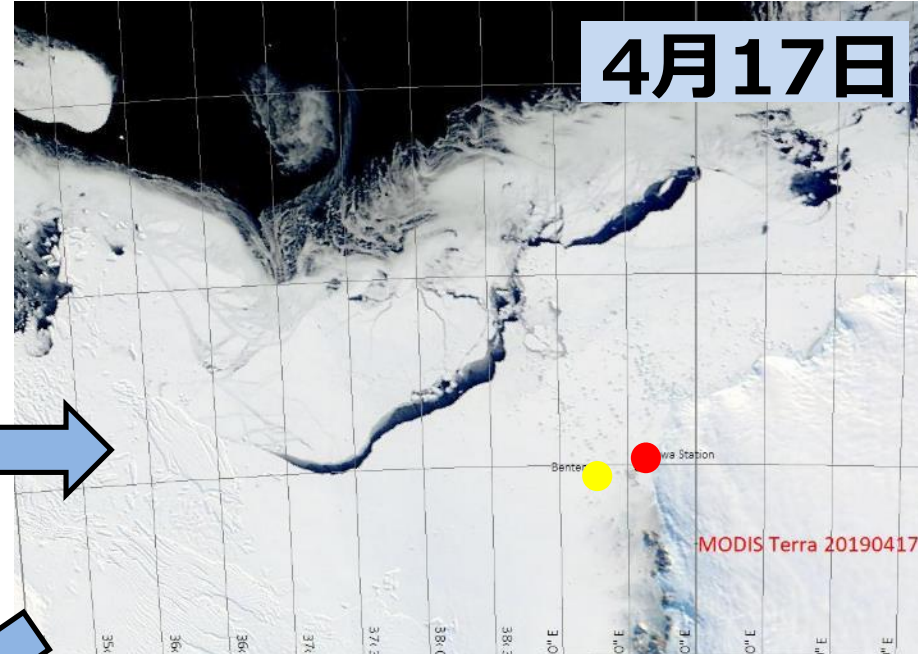


# 4月の湾内定着氷の変化（衛星画像）

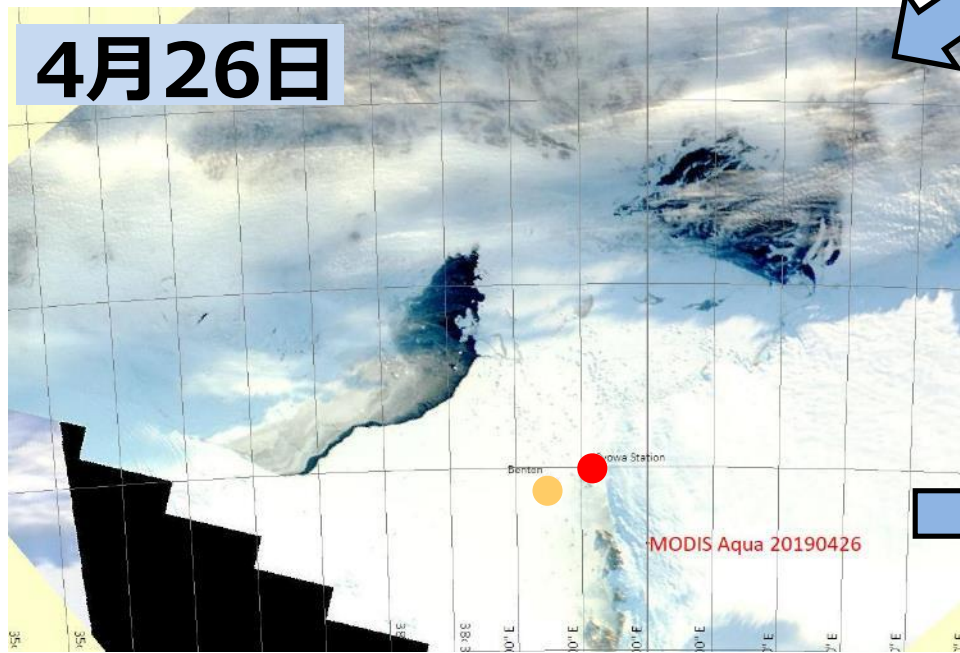
4月7日



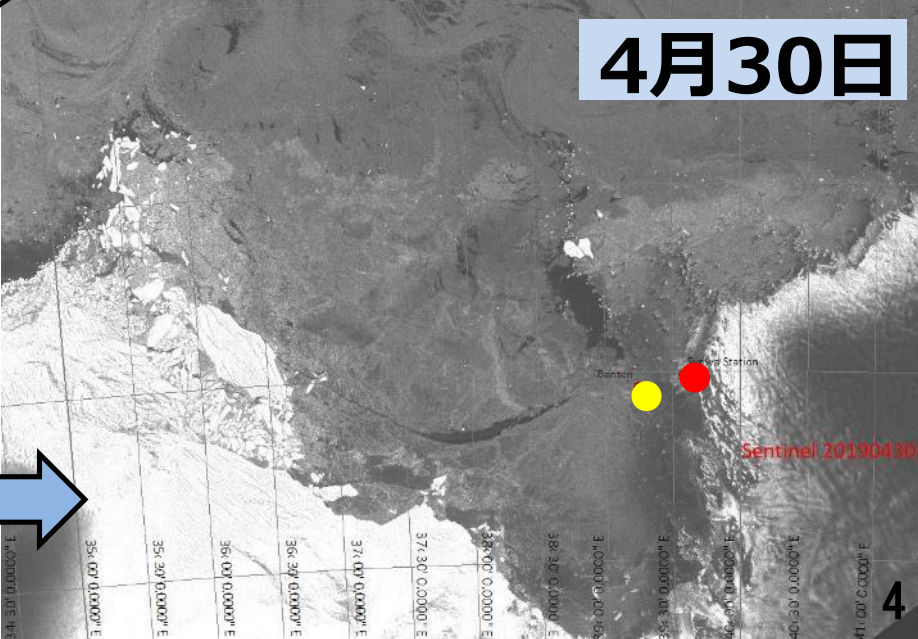
4月17日



4月26日

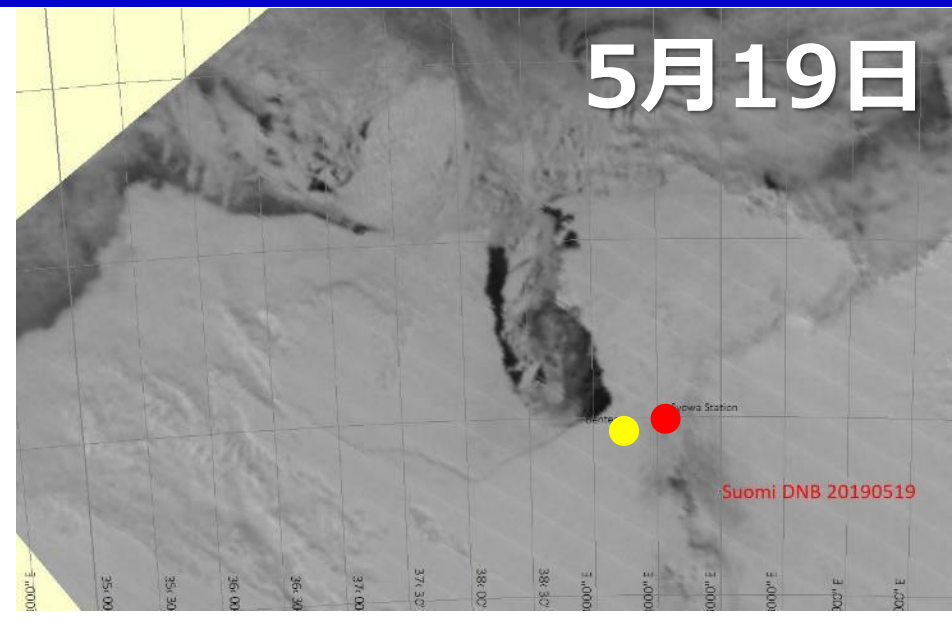
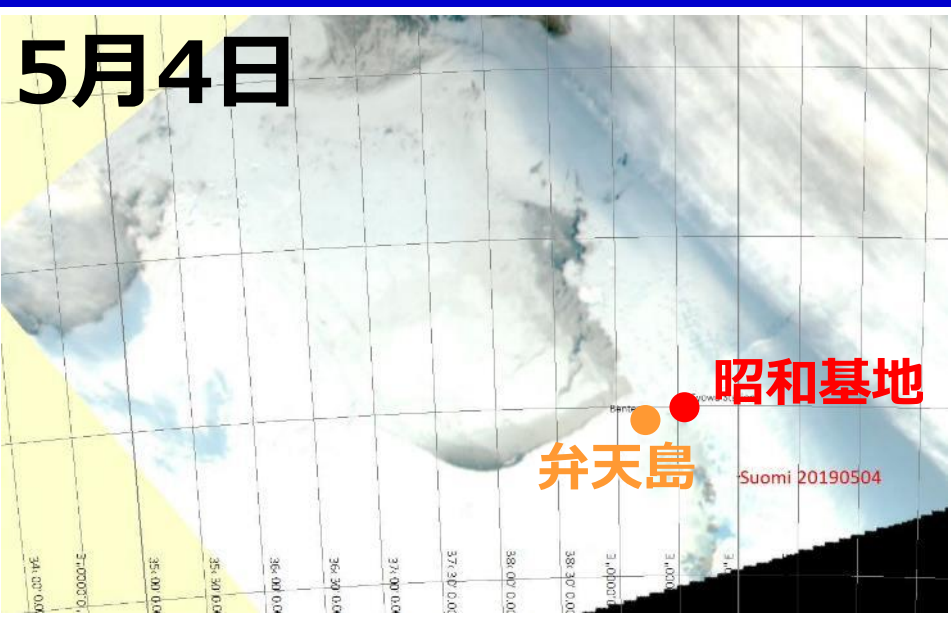


4月30日



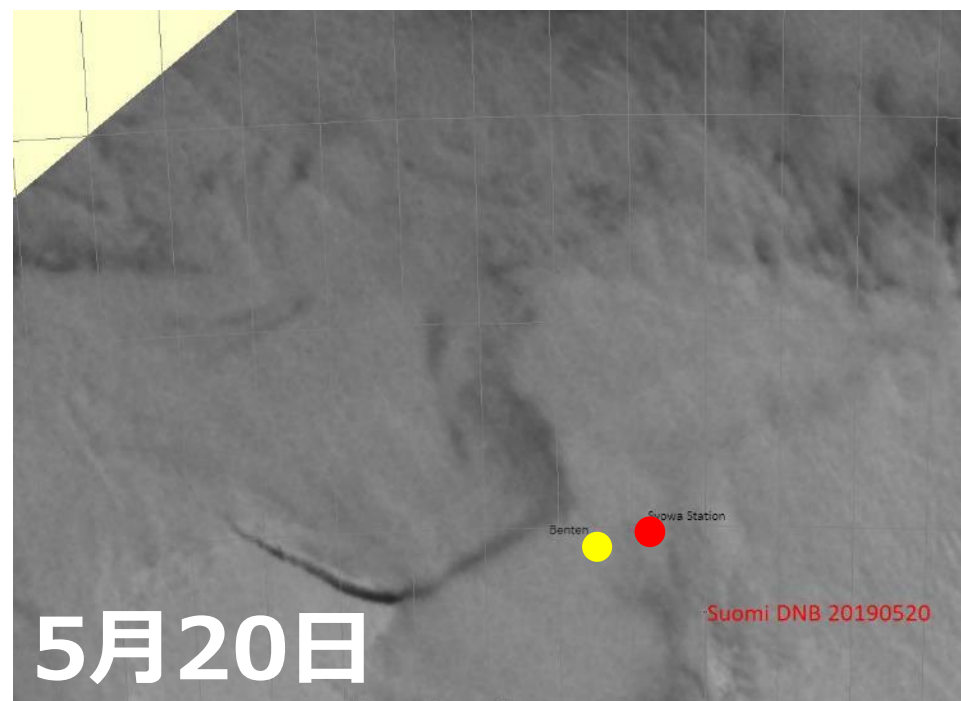
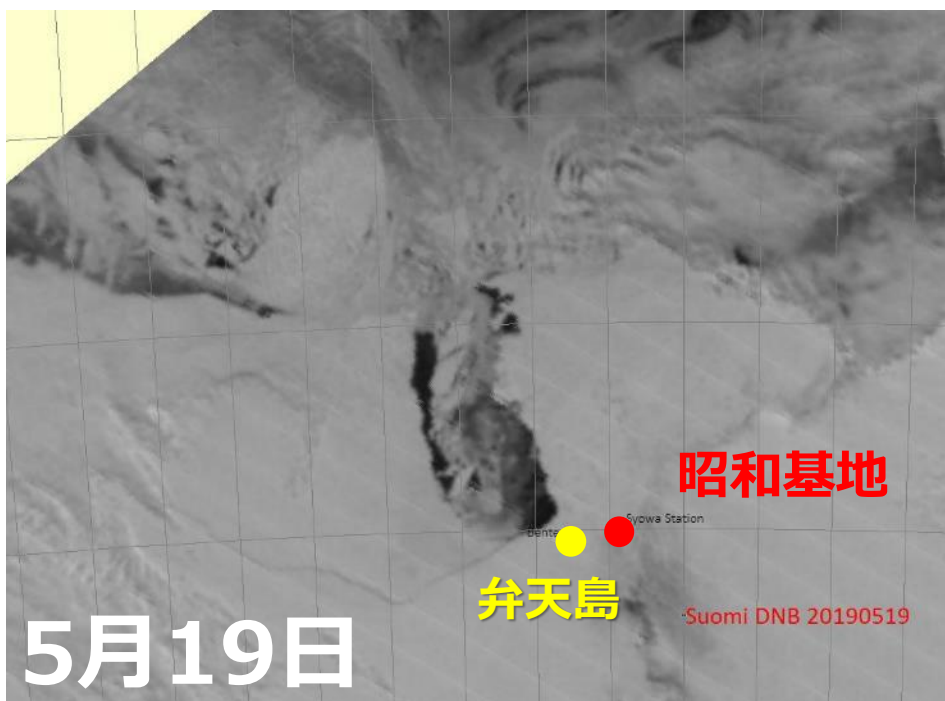


# 5月上～中旬の定着氷の状況（衛星画像ほか）



(60次越冬隊撮影)

# 5月中～下旬の定着氷の状況（衛星画像）



- ◆ 5月12～18日の荒天に伴い、割れた領域内の海氷が西側に吹き寄せられ、東側に水面が広がる状況となった。
- ◆ 4月下旬に進行した割れ込み領域は、5月20日時点で凍結していない。
- ◆ 割れ込んだ定着氷域の氷状（凍結後は来夏時点で一年氷）は凍結過程に依存する。

60次越冬隊と随時情報共有し、監視を継続する。